

平成 26 年度第 5 回小学校ゼミナール記録

2014 年 10 月 17 日（金）

於：広島大学附属小学校

司会：影山和也（広島大学准教授）

参加者：森山（発表者）他 13 名

1. 検討論文

Bert van Oers. (2010). Emergent mathematical thinking in the context of play.

Educational Studies in Mathematics, 74, 23-37

遊びの文脈における数学的思考の発現

2. ゼミナールの内容

今回から、新たな論文に取り組むということで、発表者が論文を選んだ理由のや著者の紹介を行った。その後、論文の研究の基盤となっている理論を抑え、発表者から要約と第 2 章までの概略の説明が行われた。著者である Bert van Oers はアムステルダム大学教授であり、Vygotsky の文化歴史的理論を基盤として、教育心理学、早期教育の研究を行っている。発表者は検討論文が Vygotsky の理論に基づいた授業実践について述べられており、子どもの数学的思考の発現を促すための教師のアプローチについて議論する契機になるという理由から取り上げている。

検討論文の基盤となっているのは、上述したように Vygotsky の文化歴史的理論である。その理論は、人間の精神発達は自然発生的に行われるのではなく、歴史的に意味付けられた記号によって構成された世界（文化）に参加することで、個として心的に発達していくという人間観からなっている。

1. 導入

Oers 氏は、知識社会と呼ばれる今日、算数の授業においては、算数の理解と同時に個人のアイデンティティ形成が行われなければならないという考えを背景に、Vygotsky の文化歴史的理論に基づいた授業を構成、実施することを研究の狙いとしている。

2. 数学教育への開発的アプローチ

第 2 章では、先行研究から文化歴史的アプローチの学習の 5 つの条件を整理している。その条件とは、(1)有意義な学習、(2)文化的実践の参加、(3)知識のある他者の助け、(4)活動を導くこと、(5)コミュニケーションである。

ゼミナールにおける疑義としては、第 2 章の 5 つの条件とはどのようなことを表しているのか、また、なぜ 80 年ほど前の Vygotsky の理論に基づいて研究を行うのかというものが挙げられた。

（文責：橋口幸貴・森山健）